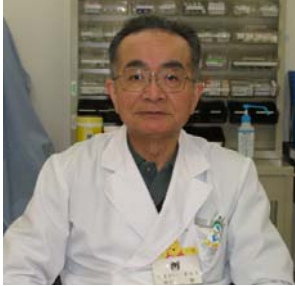


はじめに **新城市夜間診療所 管理者 熊谷 勝**

医師不足のため平成 18 年度より新城市民病院の時間外救急が中止せざるを得なくなり、市民の皆様にも、ご不便をかけております。時間外救急は医師会の休日診療所、輪番当番医で行っていますが、「新城市は面積が広く不便で、毎日場所が変わるので分かりにくい」との不満がありました。

県、市、保健所、医師会など関係者で協議し、時間外一次救急だけでも定点で行えるようにならないかとの話し合いがなされました。その結果新城市の時間外診療所が平成 20 年 10 月 1 日に設立されました。

時間外診療所は豊橋市医師会、豊川宝飯医師会、豊橋ハートセンター、新城医師会の有志の先生方の協力・援助を得て、運営されています。まだ月曜日、火曜日、金曜日、土曜日の週 4 日だけですが、20 時より 23 時に小児科・内科の一次救急の診療を行っております。外科疾患や重症患者は診療出来ません。幸いウィークデーは外科系の患者は新城市民病院にて診察していただけることになっています。

また鳳来地区の輪番当番の先生方には、出来るだけ時間外診療所が開いている曜日に当番になって頂き、市民は二カ所で診療が受けられるように配慮しています。少しは時間外診療が受けやすくなったと思っておりますが、やはり新城市民病院が立ち直って、後方支援が出来るようになることを願っております。新たに、ご協力頂ける先生がいらっしゃいましたらご連絡をお願い致します。

今後とも関係者の皆様のご理解・ご協力をお願いします。

開業医訪問

さくら眼科 院長 三治 欽哉



新城市上平井に平成 9 年 7 月 10 日に開院し早くも 13 年目になろうかとしています。

私が開業した当初は 151 号線沿いにはなにもなかったのですがその後、皮膚科、整形外科、

内科、歯科と立て続けに開院しあつという間に強大な？病院通りへと変貌を遂げました。患者様の中には“この後皮膚科と整形外科にかからなければならないから早くしてくれ”と無理難題をいわれる人もみえます。その様な患者様はやはり山間部の人が多いのですが、強行スケジュールをたてなければなかなか受診できない患者様をいかに減らすかが今後の僻地医療の課題の 1 つかもしれません。

これからも微力ながら地域医療に貢献し、又近隣の先生方にご迷惑をかけない様努力してまいりますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

- 住所 新城市上平井字昭和 959-1
- 電話 0536-22-4100

勤務医訪問 新城市民病院

消化器科・外科診療部長 金子 猛



平成 18 年 3 月に新城市民病院に赴任して早 3 年が経とうとしています。当時は、今まで居られた消化器内科、消化器外科の先生方がすべて御辞めに成られた後を引き継

ぐ形での、全く新しいスタッフだけの開始だった事もあり、最初の一年は今まで通ってこられている患者様の情報把握、職場環境の整備、また患者様への対応等で精一杯の状態でした。3 年目に入り、ようやく医療環境が整い、他科の先生方との連携もスムーズにいくようになり、検査、手術とも安定して行えるようになってきたように思います。私は消化器一般を専門としておりますが、その中でも上部消化管を得意としております。去年より経鼻内視鏡も 2 本揃えていただき、おかげさまで当院での内視鏡検査数も年々増加してきております。紹介状の御返事には内視鏡の画像付きの所見用紙を同封させていただき、病診連携の助けになればと考えております。二次検診の他、胃腸症状のある患者様が見えたら御紹介いただけましたら幸いです。

さくら眼科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	×
午後 3:30~6:30	○	×	○	○	○	×	×

休診日：火曜日午後・土曜日午後・日曜日・祝日

手術日：火曜日・木曜日午後12:30~3:00まで



↑ 全景



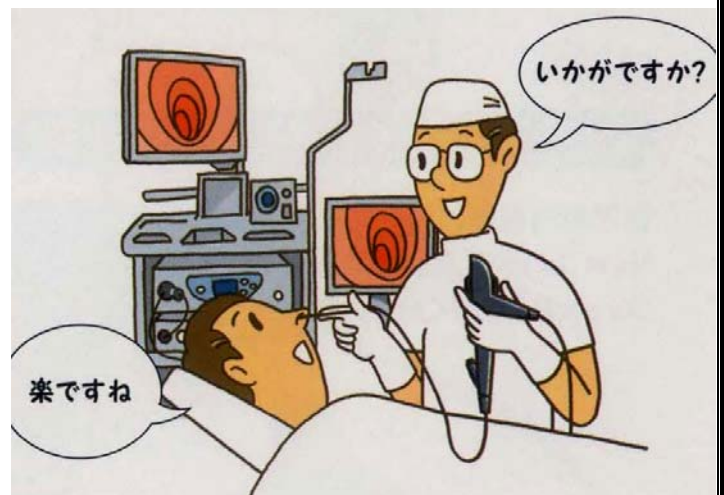
↑ 待合室

市民病院

消化器科



↑ 内視鏡



↑ 経鼻内視鏡



北部医療圏にへき地保健医療センターを！

新城市健康医療部アドバイザー 岡田 斉

現在、北部医療圏内でへき地医療に日夜献身的に従事している医師の中で、自治医大出身の医師が、確か12名おられると思います。この先生方を核に“へき地保健医療センター”を設立し、このセンターが責任を持って、主体的に次のような事業を進めていくなれば、この地域の住民の安心・安全は今より更に大きく改善されていくと思います。

- 1 脳梗塞や心筋梗塞などの突然の発症を防ぐような保健予防及び日常的医療活動
- 2 へき地での保健医療に熱意をもって従事する医師、看護師、保健師などの養成、研修、リクルート活動
- 3 圏内の公的な病院、診療所への医師、看護師などの最適な派遣、配置
- 4 センターの事業計画の策定と、それを基にした県及び関係自治体との予算措置要望
- 5 派遣先医療機関と医療活動及び経営状況の協議

このようなセンターが設立され期待される実績をあげるためには、既にへき地医療に取り組んでおられる先生方の熱意と意見をくみ上げ、行政がそれをしっかりとサポートしていくことが重要であると確信します。